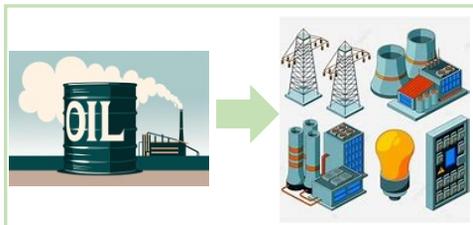


GX（グリーントランスフォーメーション）枠とは

自社の温室効果ガス排出量削減につながる業務プロセスの改善や先進的な取組み

対象となる取組み事業例

燃料転換・再生可能エネルギー導入・熱利用・自動出力制御システム導入等



化石燃料由来のエネルギー源を
CO2排出量の少ないエネルギー源に転換
するための設備更新や導入
(重油→電気、灯油→電気 など)

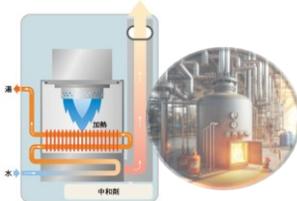


再生可能エネルギーの活用
蓄電設備の導入

化石燃料 からの脱却

ガス
重油
灯油
ガソリン
軽油

Co2排出量の
少ないエネルギー
への転換



排熱等活用
のための設備導入

二酸化炭素排出量の見える化

(EMS導入によりCO2排出量の見える化
によるムダ削減、従業員の意識向上促進)



グリーン電力への転換

現状



事業場単位又は会社全体の
使用する全てのエネルギー使用
量を把握

GX枠申請の要件

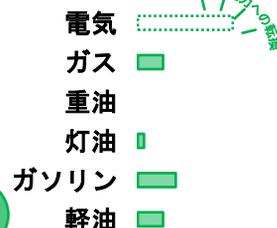
$$b/a \leq 99\%$$

事業場単位又は会社全体でCO2排出量1%以上削減

CO2排出量 a

CO2排出量 b

事業完了後1年以内



事業場単位又は会社全体の
使用する全てのエネルギー使用
量を把握

申請のポイント GX枠申請にあたり

- ・自社のCO2排出量削減(具体的目標値)をロードマップ等により示し、ビジョンとして掲げた取組みの一貫であるか
- ・「[富山県版 GX取組み手引書](#)」の業種別取組み事例を参考に、自社の課題解決に向け多方面から検討されているか
- ・単なる設備や機器の設置ではなく、温室効果ガスの排出削減に資する先進的な取組みか
(例:単なる太陽光パネル設置ではなく、蓄電設備やEMSの導入等複合的な取組み)

CO2排出量削減ロードマップ(イメージ)

2021

エネルギー転換(電化等)

2026

再生可能エネルギー活用

2030

CO2排出量30%

2050

CO2排出量プラスマイナスゼロ

脱炭素社会の企業への影響 【富山県版 GX取組み手引書～脱炭素社会を生き残るために～】より

あらゆる方面から、企業に対する脱炭素への要請・期待が高まっています。対応が遅れると、業績や人材獲得などにネガティブな影響があります。一方、いち早く適切に対応していくことで、自社の競争力強化、他社との差別化に繋がります。